

8年度市功労者に 2氏が決定

市勢の発展に貢献し、その功績が極めて顕著であると認められたかたや団体をたたえる大館市功労者表彰。8年度の功労者には2氏が決まりました。各分野で多大な功績のあった2氏に、心から敬意を表したいと思います。

佐々木 丈雄氏
(軽井沢1区・80歳)



昭和二十一年秋田県穀物検査所(後に農林省食糧庁へ移管となる)に奉職。以来、昭和四十六年まで二十五年間にわたり、一貫して主

食の安定供給と食糧制度の定着、推進に貢献されました。

また、昭和四十六年大館市議会議員に当選。以来、昭和六十二年までの四期、十六年間に在職し、監査委員をはじめ教育厚生常任委員長、厚生常任副委員長、農業委員等を歴任。市勢発展に寄与された功績には計り知れないものがあります。

そのほか、昭和五十五年には社団法人大館市シルバー人材センター設立に参画。以来、平成元年まで専務理事として組織の育成、発展に尽力されたほか、大館市老人クラブ連合会副会長、大館市社会福祉協議会副会長などを歴任されています。

山内 福蔵氏
(柏田2区・73歳)



農林業及び麹製造販売業を営むかたわら、昭和三十一年から昭和三十七年まで、また昭和四十一年

から昭和四十三年までの合わせて八年間、花矢町農業委員として在職し、農業の振興と地域農業の発展に尽力されました。

昭和三十八年から昭和四十二年までは花矢町議会議員として、昭和四十二年から昭和四十六年までは大館市議会議員として在職。地方自治体の健全な財政運営や各種公共施設の整備、雇用対策等に積極的に努め、住民福祉の向上に多大な貢献を果たされました。

そのほか、郷土の自然風土に長い時を刻み育まれてきた天然神代秋田杉を独自の工法によって芸術品に完成させる技法には、目を見張るものがあります。

市長リポート

No. 110



災害発生時の
体制確立に向けて

県内の九市では、昨年の阪神・淡路大震災を教訓に、災害時における支援体制の確立を目的とした相互扶助の協定を結びました。また昨年十月には、全国青年市長会の会員市(本市を含む全国五十七市)でも同趣旨の協定を結んでいます。

これは、阪神・淡路大震災の際に求められた、行政の迅速な対応、及び外部からの支援(ボランティア)活動をよりスムーズに実現するためのものであり、被災地からの要請の有無にかかわらず、個々の自治体の判断によって、有時には遅滞なく支援人員を派遣し、物資・機材の提供などを行う、といった、きわめて積極的な協定なのです。

皆さんもご存じのとおり、大館市は過去四度の大火に見舞われ、その度に各地から様々な支援をいただき、復興を重ねながら現在へと歩んできた歴史があります。災害時の相互扶助の重要性については今さら申し上げるまでもありません。今後も県内外でこの種のネットワークを巡らせながら、緊急時の支援体制の強化を図っていきたくと考えています。

本市における災害に備えた体制確立の一例としては、新たに配置した広報車も挙げられます。大型のスピーカーや投光器を装備するこの車両は、災害発生時に市民の皆さんを誘導し、安全に避難していただくためのものであるとともに、最悪の場合には臨時の現地災害対策本部にもなり得るものです。また、今年度は市役所本庁を基地局として、各公民館十カ所と総合福祉センターを支局とした防災行政無線通信システムも整備します。市民向けの防災マニュアルの策定も急いでおり、災害対策の推進には全力を尽くしてまいりますので、よろしくご理解を願います。

小畑 元